



図書館だより

第 14 号 平成 22 年 3 月発行
弓削商船高等専門学校図書館

平成 21 年度作文コンクール優秀作・・・1
平成 21 年度学生図書委員・・・・・・・・・・1
寄稿「ウサギの耳は……」

神谷正彦 図書館長・・・・・・2

特集 学生が選ぶ

おすすめの一冊・・・3

平成 21 年度図書利用状況・・・・・・6

編集後記・・・・・・・・・・・・・・6



平成 21 年度作文コンクール優秀作

優秀作

S 1 五井 和貴 「『蟹工船』と社会主義思想につ
いての考察」

I 1 芝 雅樹 「私の夏休み」

佳作

M 4 中本 祐二 「私のインターンシップ」

I 3 十河 洋介 「エコカー減税と環境」

I 4 松浦 稔樹 「インターンシップを体験して」

S 2 菅原 大貴 「きれいになった川から学んだ」

I 4 松原 弘宜 「インターンシップを終えて」

M 1 植村 和紀 「僕のサイエンス」

I 4 山本 智子 「インターンシップを終えて」

M 1 田頭 辰哉 「私の夏休み」

S 3 寺田 淳 「地元で沸いた夏！！」

I 1 野間 千波 「オトシモノ」

S 3 矢野 雅基 「私の夏休み」

I 1 宮地 莉果 「『ウォーターボーイズ』を読ん
で」

平成 21 年度学生図書委員紹介

S 1 五井和貴

I 2 岩本華代子

M 4 曾我部賢治

M 1 世良耀亮

S 3 馬越海人

I 4 齋藤 類

I 1 藏田千穂

M 3 後藤 将

S 5 熊谷 慧

S 2 河野龍飛

I 3 長尾詩織

M 5 寺田佳世

M 2 窪田駿介

S 4 余越健人

I 5 笹井愛実

ウサギの耳は……

図書館長 神谷 正彦

ものの見方を変えられる、そのことのすばらしさに気付かされることがあります。たとえば、円錐を上から見るか、横から見るかで形はまるで違いますね。これは数学の例ですけど、“知識”がまだじゅうぶんに備わっていない「子供の目」というのも、大人にはない新しい見方としておもしろいものです。

どうして ごきぶりきたないの

おかあちゃん

おふろにいれて

きれいにあろうたり

大人なら、ゴキブリを見るとまず「汚い」と思います。しかし、本当にゴキブリは汚いのでしょうか。なにか特別の毒も持っているのでしょうか。幼児にはまだ、ゴキブリが汚いという思いこみがない、白紙なのだ、と辰濃和男さんが書いています。

おとうさんが風呂から上がったあと

お湯を落としたら

底に少し砂がのこった

ぼくたちのために

はたらいたからだ

これは、灰谷健次郎さんが紹介してくれる、ある小学生の詩です。

私も一つ紹介してみましょう。

ウサギの耳は 赤い

と子供が書くと大人はすぐ「長い」の間違いだろう？なんて思って「赤い」を「長い」と直そうとします。大人には“知識”があるので、ウサギをじっさいに見なくても「長い」というイメージが作れるからです。でも、この子供は自分の目で、間近にウサギを見たのです。そうして、発見しました。これが「詩

的感動」と呼ばれるものです。りっぱに詩なんですね。まるで、「王様は裸だよ」と言った子供の話（「裸の王様」）みたいだと思いませんか。

荷物を満載したトラックがトンネルに入ったところで、すぐ天井につっかえて動かなくなっていました。大人達が集まって相談しましたが、いい知恵が出ません。ところが通りがかった小さな女の子が言いました。「タイヤの空気を抜いたらいいんじゃない？」と。トラックは無事にトンネルから出ることができました。これは「ワーキングガール」という映画で紹介されている話です。

子供の目、ステキじゃありませんか？



特集

学生が選ぶ おすすめの一冊

湊かなえ『告白』

自分が住んでいる因島の方が書いた小説で、本屋大賞も受賞した本なので、どのような内容なのか気になって選びました。ある中学で起こった殺人事件やその事件の前の出来事、またその後の出来事を被害者の母、加害者の生徒A、B、その同級生、加害者の母という様々な立場の人々の考えなどを踏まえながら、事件が少しずつ深まっていくというミステリーです。私はこの小説を読んで思わず冷や汗が出ました。各章ごとに全く違った立場の人物視点で描かれていて、その人物ごとの感情がとてもよく伝わってきました。また、人々の心理の行き違いで生じる新たな事件や、先の読めない展開に始終ぞくぞくさせられました。

どこまでも綿密に仕掛けられた伏線や、どんでんがえしにとってもびっくりさせられるため、最後まで一気に読んでしまう一冊です。最後の章では、すべての種明かしがされ、さらにその後のことも気になってくる終わり方で、どこまでも自分の考えが深まってくるようで、とても良いです。

(情報工学科 1年 藏田千穂)

太宰治『人間失格』

作者の数奇な人生に興味を持っていたので、彼の代表作であり、彼自身の思想を体現したこの作品を選びました。また、人間を失格したというこの本のインパクトのあるタイトルにも、人としての資格を失うという虚無で殺伐とした作風を表す表現にも逆に共感を覚え、魅力を感じました。

この作品は、大庭葉蔵という男の手記を借り受けた主人公「私」が、「はしがき」と「あとがき」をつけ、大庭の手記を紹介するという形式で描かれたユニークなものです。人間失格者の目を通して見れば、世間の人間の営みを正常に送っている人々の暗い部分、エゴイズムがよく見えてくると思います。また、この作品を読む際には、筆者である太宰治についても調べると、よりこの作品の世界観が楽しめ、また「人間合格」への第一歩になると確信しています。

(商船学科 1年 五井和貴)

畠中恵『みいつけた』

同じ作者が書いた『しゃばけ』という本が面白くて、この人の他の作品も読んでみたいと思って選びました。ひいひいおじいさんのそのまたひいひいおじいさんが元気だったころ……体の弱い男の子一太郎がお江戸という所にいたという話です。一太郎が一人ぼっちで誰とも遊べない時にふと出てきた子鬼達。「ねえ一緒に遊ぼうよ」熱があるのにそう言った一太郎は、本当に一人で寂しかったんだ、本当はみんなと遊びたかったんだと思いました。ピカピカに磨かれた廊下を滑ったり、石けりやシャボン玉をしたり、元気な子ならいつでも出来る遊びだけれど、一太郎にとってはとても楽しかったんだと思いました。一太郎と子鬼の追いかっけっこが面白かったです。また違うシリーズも読もうと思いました。

一太郎と子鬼の「隠れ鬼」は次に何が起きるのかハラハラドキドキして、物語の世界に自分も入ってしまうぐらい面白い本です。また、短い文章に絵も入っているので、読書があまり好きではない人も読みやすいと思います。

(商船学科 1年 赤瀬真由)

伊集院静『機関車先生』

父がこの著者の小説が好きで、特におすすめの1冊として紹介してくれました。この作品は、瀬戸内の小さな島の全校生徒わずか7人の小学校に、北海道から臨時の先生がやって来た話です。体が大きくて、優しい目をした先生。しかし病気のせいで、口がきけない……。島の大人たちの心配をよそに、子どもたちは空より広く海より深い心に包まれて、本当に大切なものを学んでいきます。機関車先生は、剣道でも相撲でも勝つぐらい強かったが、やくざに何度殴られても決してケンカをしようとはしませんでした。先生は、どんなに強くても人とケンカをするのは良くないことだと分かっていたからです。先生は、子どもたちに「たえることも強さ」と教えたかったのだと思います。おすすめのポイントは、ヨウが何度にもわたって見る夢！！一見変な夢ですが、意外にその夢が現実になるところです。

(電子機械工学科 1年 田頭辰哉)

養老孟司『いちばん大事なこと』

今の環境についての問題、またそれについて考えている人たちの意見を知りたいと思って選びました。この本は、著者の体験などを通して、環境問題について述べたものです。養老さんの趣味である虫取りから始まり、歴史的な環境問題、人々の生活、これからの教育について触れていきます。著者の言いたいことが詳しく書かれていて、とても勉強になりました。環境問題についてのことだけを述べているのではなく、社会の様子、そしてそこから生まれる人間の考え方、これからどうすればいいのかは教えてもらうのではなく、自分で考えなければいけないということが書かれていて、自分自身の自然に対しての関心が、より一層増したと思います。

必ずしも予測が可能ではないこの世界では、「絶対」ということはありえない。それを認め、結果が出たら、それを受け入れる。それを「人事を尽くして天命を待つ」という。必要なのは、そう考える強さである。そこがこの作品のおすすめのポイントです。

(電子機械工学科 1年 宮原一博)

水野敬也『夢をかなえるゾウ』

この本が知り合いの人から送られてきて、最初は表紙のデザインと題名に強く惹かれました。テレビなどでもよく取りあげられていたので、そんなに面白いのかと少し読んでみました。するとどんどんはまっていき、面白いだけではなく今までの自分を振り返ったり考えたりさせられることが多くなり、この本を選びました。

夢をなくしたサラリーマンと関西弁のゾウの神様が出会い、神様の教えを実行していく話です。言われてみたら当たり前でも、自分では気付けないことを多く指摘させられました。ゾウと普通のサラリーマンとの会話から色々学ぶことが出来ました。「考える」というのは何か重苦しい言葉ですが、ガネーシャとサラリーマンとのやりとりから楽しく「考える」ことが出来ました。ゾウとサラリーマンとのやりとりは、ほんまに面白いです。ゾウの言うてることは一瞬馬鹿らしいと思います。でもその後に続く話を読むと、共感し、自分の考えの甘さに反省し、新たな考え方に遭遇することが出来ます。明日からの自分に何かちょっとした希望の光を与えてくれる本です。

(情報工学科 1年 山岡智実)

芥川龍之介『杜子春』

国語の授業で芥川龍之介の作品を学習し、他の作品も読んでみたいと思って選びました。また、小学校の時に劇で演じていたので、もう一度深く作品を読んでみようと思いました。

この作品は、杜子春という若者が片目眇(すがめ)の老人に助けられ、仙人であったその老人に弟子入りをする話です。仙人になるには、峨眉山の奥で魔性にたぶらかされても決して声を出してはならないという約束がありました。杜子春は約束を守れるのか……。

この作品は二つの寓意によって成り立っていると思いました。一つ目は、杜子春が仙人から三度目に金持ちにしてやろうと言われた時、一般に人間はこちらが金持ちになった時にはお世辞や追従を言って寄ってくるが、一度貧乏になると優しい顔さえ見せないのだから人間には愛想が尽きたと考える所です。二つ目は、終わりの父母の苦しみを見殺しにして仙人になるより、人間に戻って正直な暮らしをした方が良く考える所です。この作品は、人間の心の裏をつくような作品だと思います。また、中国唐代の小説『杜子春伝』を参考にした作品で、杜子春という主人公に起こる出来事に人情を感じさせる芥川作品になっています。ぜひ読んでみて下さい。

(情報工学科 1年 森野彩)

ロバート・エドワーズ『オバマ』

近くの図書館の「面白い本見つけた」コーナーに置いてあり、気になったので選びました。バラク・オバマは、今世界中で最も有名な人の一人です。この作品は、オバマがこつこつと努力を重ね、アメリカ合衆国初のアフリカ系アメリカ人大統領となるまでを描いた物語です。

オバマはとにかくすごい。この本を読み終わってそう感じました。オバマはインドネシアのジャカルタに四年間住んでいたそうです。日本のすぐ近くで育った人だと思えば、とても身近に感じ、そしてまた安心もしました。大統領選挙で1億2千万5百万人の人が投票したそうです。8百万票の差をつけてジョン・マケインを破ったのです。僕も投票できたなら、オバマに投票したと思います。これからの活躍が楽しみになりました。

この本は、大人にも子どもにもとても易しく書かれた本だと思います。ケネディを超えるといわれる名演説も全文掲載されています。僕にとっては、世界の動きに興味を持たせてくれる良い機会になりました。

(情報工学科 1年 寺田祥二)

よしもとばなな『ハチ公の最後の恋人』

別れを知らながら恋をするというのはとてもつらいはずなのに、この本は穏やかな優しさを感じる一冊です。この、登場人物をとりまく優しい気持ち、日常生活の疲れを癒してくれます。浮世離れた人々に憧れます。

(情報工学科 3年 武田早希)

『アンネの日記』

アンネの目を通して見た戦争の恐ろしさ、人間関係、自分自身の考え方などを知るとともに、色々なことを考えさせられました。年も近く、こんな楽しい時期に差別、戦争、家族と離ればなれに……本当につらかったと思うし、かわいそうでした。今の日本は戦争などなく平和で、何の心配もせず毎日を過ごせていることに感謝したいと思いました。

(情報工学科 3年 赤瀬歩実)

梨木香歩『西の魔女が死んだ』

読みやすく、描写も文体も美しいです。「おばあちゃん」の一言一言がものすごく大切なことをさらっと言っているのも、何度も読み返したくなります。主人公の中学生の気持ちも、その母親の気持ちも、そして主人公の祖母の気持ちも、どれもが手に取るように理解できます。物をたくさん持つことが文化ではないことがよく分かる本です。

(情報工学科 3年 桧垣美遥)

星新一『ちぐはぐな部品』

事故により、脳を残してすべて人工の身体となり、ひっそりと一人で暮らしていたムント。訪ねてくるのは、週一回の合成血液の配達員だけ。ある日、外の世界につながるテレビと電話が通じない。仕方なく外に出ることにしたムント。そこには動く物が何一つない世界だった。「凍った時間」他29篇。SFからミステリー、時代物まで、星作品中とりわけバラエティ豊かなショートショート集となっています。

(電子機械工学科 3年 小田崇史)

相田みつを『雨の日には雨の中を風の日には風の中を』

この本は相田みつをさんの詩集であるため、小説などに比べて非常に短い本にはなっています。今までの人生での反省すべき点、これからの人生

に参考になる点など、今後生活していく上で悩んだり迷ったりした時に、相田みつをさんの言葉を胸に生きていくという勇気が湧いてくる本です。もし自分が、このような立場に立った時には、この本をもう一度、二度と読み返し、参考にしていきたいと思います。

(電子機械工学科 3年 松岡大夢)

芥川龍之介『蜜柑』

『河童』や『蜘蛛の糸』など、芥川の作品は不思議な話で読む人を引きつける面白さがあります。しかし、この『蜜柑』は他の作品と違い、芥川が実際に体験したことが素朴にとっても短く描かれています。そして最後のシーンの蜜柑を投げる所は、目の前に情景が浮かぶようでとてもすばらしい作品だと思います。

(情報工学科 3年 山下弘晃)

上橋菜穂子『闇の守り人』

この作品は〈守り人シリーズ〉の2作目にあたるもので、シリーズ最高傑作ともいわれているものです。シリーズすべてに言えることですが、物語の世界が細かく書かれていて、頭に入りやすい書き方になっています。特に食べ物はどれも美味しそうに見えます。この作品は、生命の本質や、人間心理の陰影の深さについて深く書かれており、現代でも共感できる作品になっています。

(情報工学科 3年 十河洋介)



図書館利用状況 H21.4～H22.3

(1)入館者数

月別 事項	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
学生(人)	719	893	1,425	578	60	1,000	819	706	664	439			7,303
	19	20	51	10	-	42	53	64	12	5			276
教職員(人)	86	60	52	64	68	48	51	55	38	47			569
	3	6	1	3	-	5	5	3	1	1			28
学外者(人)	5	2	1	7	86	4	2	3	1	3			114
	3	3	2	16	-	5	4	39	5	5			82
計(人)	810	955	1,478	649	214	1,052	872	764	703	489	0	0	7,986
	25	29	54	29	-	52	62	106	18	11	0	0	386
開館日数(日)	21	18	22	22	18	19	21	20	18	19			198
	6	8	8	4	-	8	8	8	6	5			61
1日平均(人)	38.6	53.1	67.2	29.5	11.9	55.4	41.5	38.2	39.1	25.7			40.3
	4.2	3.6	6.8	7.3	-	6.5	7.8	13.3	3.0	2.2			6.3

(2)館外個人貸出者数

月別 事項	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
学生(人)	111	144	116	104	6	81	100	93	80	92			927
	4	6	4	2	-	3	7	8	0	0			34
教職員(人)	20	26	31	22	9	21	32	24	20	9			214
	1	2	0	0	-	3	3	3	0	0			12
学外者(人)	1	1	0	0	0	1	0	2	0	1			6
	2	2	2	2	-	2	1	2	3	1			17
合計(人)	132	171	147	126	15	103	132	119	100	102	0	0	1,147
	7	10	6	4	-	8	11	13	3	1	0	0	63

(3)館外個人貸出冊数

月別 事項	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
学生(冊)	164	214	175	169	12	117	137	148	127	134			1,397
	5	8	7	3	-	5	16	8	0	0			52
教職員(冊)	43	76	87	44	20	48	73	46	33	20			490
	3	4	0	0	-	8	6	3	0	0			24
学外者(冊)	1	3	0	0	0	5	0	7	0	1			17
	10	10	10	5	-	10	5	10	15	5			80
合計(冊)	208	293	262	213	32	170	210	201	160	155	0	0	1,904
	18	22	17	8	-	23	27	21	15	5	0	0	156

※ 網かけ 内は時間外利用で外数



一 編 集 後 記 一

図書館だより第14号をお届けします。「特集 学生が選ぶおすすめの一冊」はいかかでしたか。読んでみたくなるような本はありましたか。深く考えさせられる本、わくわくしながら読めそうな本、心が疲れた時に開きたくなるような本……魅力あふれる本がずらりと勢ぞろいしていますので、どの本からでも手にとってみてください。兼好法師は『徒然草』で、読書は「見ぬ世の人を友とする」と述べています(授業で学びましたね)。人との出会いの不思議さや嬉しさ、難しさは良く知っていても、本との出会いに心を砕いている人はどれ程いるのでしょうか。読書を通じて、みなさんの学生生活がより豊かなものになることを、願っています。